

# ねこの灯まつり

渡辺 やすし

きょうは、おかあさんといっしょに、まこの灯まつりに行く日です。

わたしがれんしゅうしていると、白ねこのミミがふしぎそうに見ていました。

夕方、ゆかたを着て、ちようちんをもって出かけると、ミミがあとをつけてきました。

おどりのかいじょうには、やぐらがたち、ちようちんの灯がまちをやさしくてらします。

「どう、ミミ。わたし、じょうず？」  
わたしがたずねると、ミミはしっぽをぴんとたてて、じっと見つめました。

つぎの日の夕方、ミミが外に出ていったので、こっそりあとをつけました。

ミミが向かったのは公園のジャングルジム。そこはやぐらになっていました。たくさんのねこがあつまり、みんな、しっぽに赤いリボンをつけています。

あたりはだんだんくらくらしてきました。すると、赤いリボンは灯のようにかがやき

はじめました。

となりの家のねこのゴロちゃんがたいこをたたき、ともだちのかなちゃんのねこのモモがふえをふいています。

ミミは、しっぽをたかくあげて、くるり、ぴよん、ととびはねて、またくるり。

小さなねこは、ちよこちよこ足をふみならし、ふわふわのねこは、しっぽを大きくゆらしてまわります。

いつのまにか、わたしも、やわらかい毛に包まれて、ねこになっていました。

しっぽには、ミミとおそろいの赤いリボン。ミミがくりとまわって、わたしを見て、にっこりわらいました。

「ようこそ、ねこの灯まつりへ」  
ゴロちゃんがたいこをたたきながらにっこり。

「おお、なかなかやるにや。そのステップ、もうすっかりねこにや！」  
モモがふえをふきおわって、目をほそめま

した。

「こんどは、かなちゃんも連れてきてほしいにや〜」  
ねこたちがいっせいに声をそろえて呼びかけます。

「にやんにやん、ようこそ、ねこの灯まつりへ」

このまちには、すてきな灯まつりがふたつあります。

ひとつは、人間の灯まつり。

もうひとつは、ねこの灯まつり。  
でも、ねこの灯まつりにさんかできるのは、ねこがだいすきで、夢を見ることができるともだけ。

来年は、かなちゃんといっしょにねこの灯まつりに行きたいな。

だって、ねこがだいすきで、夢を見ることができから。